

## 平成29年度つながる事業 第1回報告相談会概要

日 時	平成29年7月6日（木）午後13時30分～午後15時30分
場 所	川辺町中川辺（大谷公園集合）
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ふるさと愛好会（代表 渡辺さん、則武さん、西村さん）</li> <li>■アドバイザー 伊藤慎悟氏</li> <li>■事務局（渡辺室長、佐合係長、村雲、川上）</li> </ul>
内 容	<p>&lt;現地確認&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■平成28年度に設置した看板の確認</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【大谷公園駐車場】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【八坂山休憩所】</p>  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>■平成29年度の実施内容の確認</li> </ul> <p>【獣害対策用電気柵の設置（済）】</p> <p>電気柵は夜間のみ通電する機材を購入。また、一部の桜の枝を伐採したことにより、昨年度に植栽した芝桜の生育が良くなった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">【参考：昨年度の同じ場所（植栽前）】</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

【看板の木枠の修繕（済）】

防腐剤を散布し、より耐久性が高くなった（数年は維持可能）。



【山道中の橋（作業中）】

グレーチングは道幅が狭くなってしまふ。コンクリート板の方が安価で耐久度も変わらないことから、コンクリート板へと変更した。今後、他の橋も順次付け直していく予定。



【大谷山休息所の設置予定場所】

休息所の建設は、川辺町主体で実施。ふるさと愛好会は資材運搬等を手伝う。今後、川辺町関係者にこの現場を見てもらう予定。



【石像の看板を作成し直した（ペンキ：メンバー直筆）】



<報告・相談事項>

【報告】

・今年になり、川辺町北小学校が山登りを体験しました。これで町内3か所の小学校と中学校の一部の生徒が登山を体験したことになります。これにより、川辺町で育つ子どもたちは小中2回の登山を経験できるようになりました。教育委員会がこの活動に協力的であり、今後も続いていけると思います。

・昨年、登山中に滑落事故に遭った人がいましたが、団体の初動（即座に救助隊の要請を行った）が良かったことから、つい先日、退院の御礼の為に役場へ来てくれました（骨折で半年間入院されていた）。お礼まで言い、わざわざ来てくれたというこの関係を大切にしていきたい。

・芝桜の植栽は、苦労は多いのですが、企業や学校が参加の意思を見せており、貴重な住民参加型のまちづくりであるため、続けていくべきことだとは思っています。芝桜の植栽が完了すれば、この植物の維持管理をどうすれば川辺町の利になるか、各団体が川辺町の為にと考えていく事の基盤になると考えています。平成27年度に植栽した芝桜の生育が悪いことから、今年はその手直しが多くなりそうです。

・今年は大谷山の休息所の整備に人員が割かれることから、無理のない範囲で実施していきたい。

【相談】

（伊藤慎悟氏）

来年度以降の活動はどのような事を考えていますか？

（団体）

活動資金は必要ですが、要件を満たせば、県や社会福祉協議会の助成をうまく活用できると思います。それよりも、特に子どもたちとのつながりが生まれたのは良い縁でした。学校側が協力的で、通年事業として登山をしてもらったり、植栽や看板作り等を手伝ってもらえるようになり、子どもたちに川辺町の良さを知ってもらえる良い機会となります。子どもたちを通じて親世代へも広がることから、この資源の魅力を知る人がさらに増えることを期待したい。

この3年間、地域の中の一員として定住自立圏事業に携わることが出来、みのかも市民活動サポ

ートセンターなどとのつながりも生まれました。この縁を活用し、今後も地域の中の一員として活動を続けていきたい。

(団体)

情報発信力に悩んでいます。今はSNSが主体となっていることは分かりますが、それを操れるメンバーがいなことが悩みです。隣接する納古山は、名古屋からも多くの登山者が訪れる山であり、その際、八坂山の目の前の道路(国道41号線)を利用する人が多いと聞きます。せっかくこんな良い山があるのに、通過して行ってしまうのです。

先日、名古屋から八坂山へ登山しに来た人がいました。その人は、新聞からこの山の事を知って来てくれたのですが、川辺町役場も商工会も八坂山の事をあまり知らない様子で、米田富士と混同している人も多い様子でした。八坂山は手軽に登ることが出来、米田富士よりも多くの人が訪れる山。今回の事は特に、役所へ八坂山を示す情報を発信してほしいと伝えました。

(伊藤慎悟氏)

短期的にしろ、長期的にしろ、団体の活動で出来る事はいくつかあると思います。

まず、活動を知ってもらうために、ホームページを持ったり、FaceBookなどを活用できると思います。ホームページも無料ではじめられるものも多く、若いメンバーや、実際にSNSをやっているメンバーの力を借りて実施できると思います。

川辺町のホームページに、川辺町の観光地として取り上げてもらう事も、情報発信力を高めるために必要なことだと思います。山だけでなく、地域のイベントや神社などの文化と絡めてもらう事で、例えば花火大会の時の登山者の増加なども期待できると思います。

15分間で得られる大きな達成感は、セールスポイントになると思います。

(団体)

平成30年度に、団体の主幹メンバーの若返りを計画しています。現在、常時15~20名の方が積極的に活動してくれていますが、仕事との兼ね合いなどによってその温度差は様々です。

山を守っていく意識をずっと持ち続けてほしいと思いますが、正直、3山を整備するという守備が広くて、活動を強制することはできません。

今年、美濃加茂市が鬼飛山の登山道を整備しています。良い林道が出来つつあるので、美濃加茂市とも一緒に、鬼飛山を含めたこの3山について情報発信していきたいと思います。

(推進室長)

まずは地域の人を対象に、情報発信できると良いと思います。今はFBの他にインスタグラムも流行っているので、積極的に若い人を巻き込んでほしいと思います。山の整備のためのメンバーではなく、情報発信を専門に行ってくれるメンバーを募集することも有効的だと思います。

自然相手の活動で大変なことですので、余計にメンバーを大切に活動して欲しいと思います。

日 時	平成29年7月6日（木）午後19時00分～午後20時00分
場 所	美濃加茂市生涯学習センター505号室
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■犬育応援プロジェクト ワンコミ（代表 田原さん、堀さん）</li> <li>■アドバイザー 伊藤慎悟氏</li> <li>■選考委員 渡辺洋一委員</li> <li>■事務局（佐合係長、村雲、川上）</li> </ul>
内 容	<p>&lt;報告・相談事項&gt;</p> <p>【代表の変更について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月当初、計画を作る段階では問題なかったのですが、これまでの間に、各関係者と連携したり、コミュニケーションを取ったり、書類の作成をすることが、思っていた以上に大変だったようで、代表と連絡が取れない状況が続いていました。そのような状況でしたので、メンバー内で判断した結果、代表を変更することとなりました。ただし、これまで通り、渡邊元代表も一緒にプロジェクトを実施していくことは変わらず、今後は田原代表のもとで事業を進めて行くこととなります。</li> <li>・代表の変更と共に、事業の取り下げも検討していました。しかし、とある協力者の人に、「その程度の気持ちで事業を進めていたのか」と問われ、代表を変えても進めるべきだと思い、田原が代表をする事となりました。</li> </ul> <p>【当初計画との変更点について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施する事業は、ワンコミ講座、同行避難体験会、わんわん相談員活躍場の提供、無料出前講座です。</li> <li>・視察費用を大幅に削減し、2名で日帰りの計画となりました。</li> <li>・わんわん相談員の育成は今回の事業内では行いませんが、わんわん相談員と連携し、各イベント時に昨年度の有資格者が活躍できる場の提供を行います。</li> <li>・歩好里人への掲載は3回から2回へ削減しました。</li> <li>・テントは大きさを小さくし、ケージは中古品（ほぼ新品）のものを購入できそうなので、それを購入することにより費用を削減します。</li> <li>・出前講座は、30分程度の無料講座で、企業や行政、個人サークルなど、対象は興味を持ってくれた組織向けに行います。同行避難や防災に関する内容で、その必要性を感じてもらったら、有料講座へ誘導し、来年度以降の活動収益の基盤とします。（開催時期によっては、ワンコミ講座や同行避難体験会のPRを行い、参加を呼びかけます）</li> </ul> <p>岐阜県美濃市の動物愛護センターは、ペットの譲渡事業を行っており、新しい飼い主に向けた周知として、センターは出前講座の開催を前向きに受け止めてくれています。（愛護センターでの実施は、田原代表が動物愛護推進委員の関係で愛護センターとつながりがあるため）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンコミ講座では、8月と2月に1回ずつ行います。8月の講座では、子どもの夏休みの宿題にも使えるよう、防災新聞を親子で作っていただく予定です。教育委員会から学校を通して子どもたちへ直接チラシを配ってもらえるように、現在調整の最中です（そのほか連絡所、児童館等へ配架予定）。子どもを通して大人への広がり期待しており、教育委員会から後援を貰う為に今回の収益はありませんが、今後は収益が出るように活動していきたいと思っています。2月の講座では、昨年度に開催したワールドカフェ方式で、防災や同行避難について参加者に考えてもらう機会を作ります。昨年度はファシリテーターを活用しましたが、今回は自分たちでファシリテーターを務め、費用の削減を行います。</li> </ul>

【相談】

(伊藤慎悟氏)

防災や同行避難に特化した計画となりましたが、団体の今後に関するイメージや方向性について教えてください。

(団体)

まず、私たちが防災の知識人にならなければならないと思っています。というのも、同行避難とは防災の1つであり、まずは人命を確保しなければペットの命も助けられません。ですので、私たちが防災士の資格を取る事は必要であると思っています。防災士の資格を取れば、同行避難への啓発は勿論、防災士を通じた縁も生まれ、ペットを飼っていない人たちの意見を聞く機会を得ることが出来ると考えました。

(伊藤慎悟氏)

当初に比べ、活動内容がイメージしやすくなったと感じます。大きく広げすぎず、手の届く範囲で着実に活動できればと思います。

この事業は、もともとボランティア性が強く、収益が得られにくい活動内容だと思います。活動自体は個人的にも必要性を感じていますが、この事業のビジネス化はどのように考えていますか？

(団体)

今回の計画では実施しませんが、今後は物販や会員制度も考えています。関係者の力を借りて、協力し合って、私たちの団体がこの活動において頼ってもらえるようになりたいと思います。

(伊藤慎悟氏)

ワンコミならでの、同行避難マニュアルが確立することが良いと思います。特に、それを伝えたら誰でも実施できるようなレベルまで教えることができると、先行的な活動となり、多くの人からも支持されると思います。昨年度の活動を経てたくさんの知識や経験を積んでいるでしょうから、それを活かしてマニュアル化を早く進めて行くことが先決だと思います。

(渡辺洋一委員)

初期の計画と比べると1/3の予算となり、かなり制約を受けています。加えて代表者の変更で慌ただしく、悲壮感を浮かべながら、やらなければならないという意思が見えているように思います。出発点の想いは分かりますが、楽しく活動している事は顧客にも伝わりますので、限られた予算の中でその想いを形にして行動していただきたいと思います。

(伊藤慎悟氏)

これは私が感じたことですが、選考委員は、同行避難について誰も反対はしていません。ただし、ビジネス化に対しては皆さん不安に感じているのだと思います。

それは、お金をもらってその責任が果たせるのかということが焦点となっているからです。その意味で、テストマーケティングをするなどの裏付けをしていただきたいのです。そのためにまずは、同行避難のレベルを上げることが、活動を継続して行くために必要なことだと思います。周りの理解を得るためには、このことについて納得してもらえるようになることが大切です。

(渡辺洋一委員)

補助金終了後の展開を教えてください。

(団体)

プロの手によるきちんとしたホームページを作りたいと思います。これは、ワンコミの営業をしていく上で、活用したいと思っているからです。例えばイオンはショッピングモール全体で、一斉に防災訓練を実施しています。モールの中にはペットショップやペット関連商店もあり、そういった部分で、私たちが実施する「同行避難体験会」の売り込みをしたいと考えています。その時に、手作りのホームページではなくきちんとしたホームページがあると、相手側の信頼にもつながると考えています。

(伊藤慎悟氏)

それならば、ペットが好きなホームページを作ってくれる人を探した方が良いと思います。むしろ、ホームページ作成にあたり、団体の想いや考えをどんどん話して協力者を見つけ出すと良いと思います。ホームページだけでなく、寄付を募るときや、将来的に NPO 化する際などにもアピールできるポイントだと思います。

(渡辺洋一委員)

8月の講座のPRは、チラシの他にどこに発信していますか？

(団体)

学校関連の他には、フリーペーパーへの掲載、FaceBook、LINE@に掲載しています。特にLINE@は、今年3月では100名の登録者だったのに、現在130名を超えるなど、注目も高くなっているのでもう活用したいと思います。

(伊藤慎悟氏)

今年度活動をする上で、どんなことに注意して事業展開を図りますか？

(団体)

今年は団体自体のPRをしていきたいと思います。というのも、事業に対する認識はあっても、それを行っている私たちの団体が、何であるのかを良く知らない人が多かったからです。この反省を踏まえ、今年の配布物には団体の事を紹介できる要素を加えたいと思います。

そのために、形として見えるものとして、リーフレットやパンフレットの作成に力を入れていきたいと思います。

(伊藤慎悟氏)

貴団体は防災のエキスパートになるという目標を掲げていますが、エキスパートだと言えるそのレベルはどのように図るのでしょうか？

(団体)

今年の計画には入れていませんが、防災の知識を、検定を作る事で評価できないかと考えています。もし検定化できたなら、検定料も収入として見込めないかと考えています。ただ、今年はお出前講座やパンフレット、マニュアルの作成もあるので、将来的な計画としています。

(伊藤慎悟氏)

こんな事例があります。今の介護保険制度の礎を作ったすごい人がいるのですが、その人は自分の経験から様々なチェック表を作り、それを基にマニュアルを作ったそうです。これはワンコミにも活用できることで、例えば一般の人が同行避難に遭遇した時どうなるか、同行避難を教える人が災害に遭ったときにどうするかなど、いろんな立場から手順をマニュアル化できると思います。

そしてこのマニュアルは、誰もが欲しがるハウツー本として広めることが出来たら大成功であるので、ぜひ想定を密にして、マニュアル化してほしいと思います。

(団体)

そうですね。家の中や職場、学校など、さまざまな場所や立場の想定をしながら、考えていきたいと思います。

(終了)